



5面加工機
AIC-200
[導入年] 2020年

オペレーターの矢野生倫さん

引き合いの幅を広げた

大阪圧搾コルクは、その名の通りかつてはコルクの加工を専門としていた。現在は半導体製造装置やリチウム電池製造装置といった産業機械の部品向けを中心に、フライス加工をはじめとした金属加工を専門とする。中でも長尺ワークの加工で活躍するのが新日本工機の5面加工機「AIC-200」だ。2019年に本社工場を建て替え、設置スペースに余裕ができたため、翌年に導入した。

全長6000mmまでの非常に長尺なワークに対応できるのが

強み。導入以前は最大3400mmまでしか対応できなかったが、AIC-200を導入したことでこれまで取りこぼしていた長尺ワークの加工案件を受けられるようになった。今では同製品がないと対応できない案件が全体の2割を占める。

「長尺のワークを加工できることに加えて、Z軸の移動量も最大1000mmあるため、厚みのあるワークでも加工できるのがAIC-200の魅力」とオペレーターの矢野生倫さんは話す。

(斉藤拓哉)

USER PROFILE

大阪圧搾コルク

代表者：堅田壮一郎 社長
大阪市淀川区野中北1-1-74

TEL 06-6391-7147

URL www.osaka-cork.co.jp

お気に入りポイント

- 1 ワーク長さ最大6000mmまで対応
- 2 Z軸のストロークの長さ
- 3 NC装置の使いやすさ